

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスふないりBASE		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 28日 ~ 2025年 12月 19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年 11月 28日 ~ 2025年 12月 19日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ダンスやスポーツリズムトレーニング等の音楽を使った運動療育のアプローチ。身体機能の向上だけでなく、集団活動を通じた社会ルールや他者との関わり方、気持ちの折り合いなど、様々面での学びを提供することができる。	活動を通じて、「順番を守る」「人の話を聞く」「チャレンジする」等の約束をプログラムごとに設定している。その中で、努力したこと、新たにできることになったことを意識的に声掛けすることで成功体験を積み、達成感を感じるとともに自己肯定感の向上に繋げている。	保護者や利用する児童とのコミュニケーションを密にとり、施設やプログラムに対する要望を反映できるような体制づくりを行っていく。
2	自社管理の農地を保有しており、季節ごとの野菜の植え付け、栽培、収穫ができる。土や草、風など、自然の中で四季を感じることで心身のリフレッシュに繋げている。また、自分たちが育て収穫した野菜を食することで、食べものに感謝して食べる食育を行っている。	活動の中では、単に収穫を行うだけでなく、野菜が育つ環境作り（土作り）の経験、鍬（クワ）やショベル等の道具の使用を積極的に行い、体力作りを行なながら道具の使い方を覚える機会を提供している。また、収穫した野菜を事業所の近くに配ることで、児童と近隣住民とのコミュニケーションも図っている。	児童それぞれが育てたい野菜を育てることでモチベーションを高く保てるよう、農地の拡大およびビニールハウスの建造を進めている。自らが選択して植え付けし、管理ができる状況を作ることで、先を見通す力を養う体制作りを行う。
3	お金の概念を形として理解させるため、事業所内でお小遣い制を設け、自身の保有するお金（玩具）の管理を行っている。おやつの購入やアルバイト（お手伝い）代の支給には玩具のお金を使い、お金の計算に加え自分がどの程度おやつを購入できるか等、お金の学習を日々の活動の中で取り組んでいる。	オリジナルのお小遣い帳を使用しており、保有するお金がどのように増減しているか可視化している。また、購入するおやつには金額表示の他、硬貨の絵等を付し視認で金額がわかるようにする等の工夫を行っている。	実店舗での買い物頻度を増やす、買い物に行くための移動手段を増やす等、より実生活に近い形でのトレーニングの頻度を増やし、経験を積ませるプログラムを強化していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動や畠の活動に力を入れている反面、静的な活動のバリエーションが限定的となっている。児童の興味関心を多角的に刺激、引き出すための取り組みとして、屋内での静的な活動の拡充が課題となっている。	室内が運動ができるように広く設計されていることから、座って集中することが難しい（気が散るなど）構造となっている。	児童一人一人の特性に合わせて、パーテーションで仕切る等し、集中できる環境の提供が必要。また、合わせて室内での活動内容の拡充をすすめていく。
2			
3			